

学位論文審査の要旨

学位申請者	佐藤 みのり 人間発達科学専攻2015年度生		論文題目	抑うつ世代間伝達一親の抑うつに対する子どもの認知およびケア行動に注目してー
審査委員	主 査:	菅原 ますみ 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	大森 美香 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	上原 泉 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	富士原 紀絵 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	今泉 修 助教		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Psychology)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について				

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、抑うつ世代間伝達のメカニズムについて、親の抑うつに対する子どもの認知及びケア行動に注目して検討をおこなった。研究1では、児童期後期(11歳)の子どもとその両親を対象とした縦断的な質問紙調査から、父親の抑うつ傾向は、父親の抑うつへの対処効力感に関する子どもの認知を媒介し、その後の子どもの抑うつ傾向を予測することを明らかにした。研究2ではうつ病と診断された親の思春期の子ども(13~18歳)を対象とし、横断的な質問紙調査から、“親の抑うつに対する子どもの認知→子どものケア行動→子どものケア行動の影響性(肯定的影響と否定的影響)に関する認知→子どもの抑うつ傾向を含む精神的健康度”のパスに関する共分散構造分析を用いて分析をおこない、仮説を支持する結果を得ている。研究3では、外来患者として通院する成人のうつ病患者のうち、その親も当該の病院で過去にうつ病であると診断され抑うつ世代間伝達が生起している群を対象とし、うつ病の親とともに過ごした生活史に関するナラティブについて詳細な分析をおこない、うつ病の親の状況や家庭の危機を認知することを契機に、家庭の危機的状況に対する子どもの対処方略行動として親のケアに従事するようになり、ケア量や担う責任が徐々に増大していくなかで、メンタルヘルスの不調が進行していくプロセスが明らかになった。

審査委員会では、限定的なサンプル数ではあるものの、量的な分析に加えて精緻な質的分析を実施し、うつ病の世代間伝達の発生メカニズムとして子どもの親の抑うつに対する認知やケア行動を媒介するモデルについて検討をおこない、うつ病の親を持つ子どもの適応を支援することを目的とした環境づくりを進める必要性を示唆している点で、学術的・社会的に意義ある研究であると評価された。一方、1回目の審査会では、抑うつ世代間伝達に関する精神医学的な文献研究が不足していること、調査対象や方法論に関する記載に加筆が必要であること、臨床群(研究2及び研究3)における研究への診断に関する組み入れ基準が曖昧であることなどが指摘された。審査の過程で指摘された疑問点やコメントをもとに作成された修正論文とそれにもとづくプレゼンテーションについて2回目の審査がおこなわれたが、適切な修正がなされたと判断され、公開発表会が開催された。公開発表会では、質疑に対して適切な応答がなされ、当該分野に対する十分な学術的見識を有していることが確認された。

以上より、本審査委員会では全会一致でお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の博士(人文科学)、Ph. D. in Psychologyの学位を授与するのに値するものと判断し、合格とした。